



松陵健児

発行：2020年9月1日 能代高校東京同窓会 発行責任者：三浦洋 編集：会報誌グループ 題字：山田晃一(第42期) 印刷：株式会社毎栄



1979年(昭和54年)、茗溪会館。



1986年(昭和61年)、茗溪会館。



1996年(平成8年)、茗溪会館。



2000年(平成12年)、学生会館。

これまでの能代高校東京同窓会・総会の写真から4点を紹介します。

令和2年度(2020年度)能代高校東京同窓会 総会・講演会・懇親会は開催を中止します

例年10月に開催してまいりました能代高校東京同窓会の総会・講演会・懇親会ですが、
本年は新型コロナウイルスの感染拡大の状況を鑑み、やむなく中止することになりました。

おそれいりますが、同窓会活動の維持のために会費の納入をお願いします。納入方法に
ついては本誌p14をご参照ください。

【年会費】2,000円

*世帯制割引：夫婦そろって同窓生の場合は一世帯2,000円

*新卒者特例(今年度は第90期)：1,000円

東京同窓会ホームページ <http://shoryokenji.web.fc2.com/>



オンラインで乾杯！

東京同窓会会長 第45期 三浦 洋

昨年の総会で2期目の会長を拝命いたしました。引き続きよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルスの影響により、母校でも3月の卒業式をはじめとする学校行事全般にわたり、学校関係者の皆様や在校生及び保護者の皆様は大変なご苦勞やご心配をなされたことと察しております。特に卒業生は新年度を迎えるに当たり期待よりも不安が大きかったことと思います。そのような状況にあった3月の最中、東京近郊に進学や就職が決まった5人の卒業生から東京同窓会に連絡がありました。当会の存在を担当の先生が卒業生に丁寧に説明して戴いたおかげと感謝しております。

話は変わり、4月中旬のことでしたが、無線部OBの同期生から「オンライン飲み会」の提案があり、早速有志を募って定期的に宴会を始めることになりました。能代市、米沢市、東京近郊のメンバーで始まり、6月に入りシンガポール駐在9年目の45期応援団長奈良君にも参加してもらって今日まで続いています。最初はITを利用した宴会など味気ないのではないかと疑心暗鬼でしたが、気が付けば参加者全員がはまってしまったようです。微妙なニュアンスを画面越しの表情から感じ取ることで、会話の行間を補完しているのかも知れません。これに味を占めて東京同窓会でも、応用編の「オンライン幹事会」を部分的に取り入れながら会の活動を維持していければと考えています。

年に一度の同窓会は同窓生が一堂に会することに意義があると思いますので、流石に「オンライン同窓会」ではこれに取って代わることはできないと思います。しかし、「オンライン懇親会」であれば地域をまたいでの見知らぬ同窓生同士の交流の場になりうると思いますし、既に実践されている方も多いかも知れません。働き方や生活様式に大きな変化をもたらしたコロナ禍を逆手に取り、同窓会の活性化が図れるのであれば試してみる価値があると思います。皆さん、オンラインでご唱和をお願いします。乾杯！



自由自在の気風

能代高等学校長 第50期 山田 浩充

東京同窓会の皆様には、平日頃より母校に対して深い愛情と心強いご支援、ご協力をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。昨年は東京同窓会に初めて参加させていただきました、ありがとうございました。



さて、昨年の5月に能代高校東京同窓会の元会長の小林肇さん(第19期)が亡くなられました。小林さんの母校に対するご貢献は、誠に大きなものがあります。小林さんの足跡や功績につきましては、昨年度の東京同窓会会報にも紹介されておりました。実は、その小林さんの息子さん、娘さん、そしてお孫さんの3人が、昨年11月に本校においてにられました。故郷である能代や母校をこよなく愛し、大切にされた父親(祖父)が遺したという「自在の像」をひと目見ておきたいとの思いからだそうです。

私も高校時代から「自在の像」は見知っていたのですが、像の台座には詳しい説明はなく、その由来についてはベールに包まれていました。先輩からの言い伝えで「造ったのは美術の戸松先生らしい」ということくらいしか、情報はなかったと記憶しています。

昨年、本校に初めて赴任し、小林さんたちの訪問を契機に「自在の像」の由来についても知ることが出来た次第です。とにかく、当時の先生や同窓生の母校に対する熱い思いが「自在の像」となり、今も凛とした目を輝かせ、はるか彼方を指さして立っています。「自在の像」の由来をひも解いていったところ、若者が心身を鍛え、自らの目標を高く掲げ、努めて学び、何事にも動じることなく堂々と意思表示し、自由自在に力強く前進する……能代高校とは、そんな気風の学校であってほしいという願いが、像には込められていることがわかりました。

今は新型コロナウイルスの感染拡大防止による不自由な生活を余儀なくされておりますが、「自在の像」に込められた多くの方々の思いを引継ぎ、生徒たちが創立百周年に向けて新たな伝統と歴史を築いていけるよう、東京同窓会の皆様のなご一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

時節柄、会員の皆様にはご苦勞が多いことと存じ

ますが、東京同窓会の益々のご発展と、皆様のご活躍を衷心よりご祈念申し上げます。

東京同窓会の皆様へ

能代高校同窓会会長 第40期 森田 新一郎

令和の時代になって初めての新年を迎え、今年こそは台風や大雨などの自然災害が少なく穏やかな一年になりますようにと願っていましたが、まさかこのような社会になるとは思ってもみませんでした。人類が住んでいるすべての大陸で「新型コロナウイルス感染症」が猛威をふるい、また世界中の暮らしや経済に甚大な被害を及ぼし、かつ感染が急速に拡大中だからであります。



全国的には落ち着いているものの(6月中旬現在)、皆さんの首都圏では、いつ感染するかわからない不安と背中合わせの日常生活で大変だと思えますが、新しい生活様式に慣れながら頑張ってくださいますようお祈りいたします。

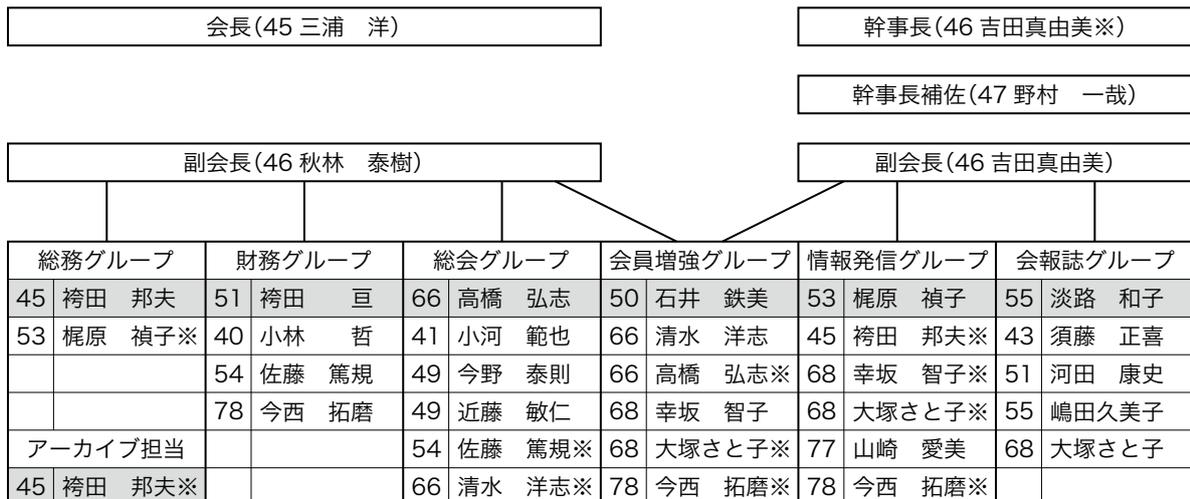
幸い、皆さんのふるさと能代山本では感染者数がいまだゼロという喜ばしい結果ですが、夏祭りや花火大会やお盆行事などが軒並み中止になっているほか、住民の心に「地域内の集会や宴会も自粛しなければ」という委縮した気持ちが強く芽生えてきていることが大変心配です。

今回の未曾有な災いを通じて、これまでの時代潮流であった「グローバル化」や、これまで地方があこがれていた利便性、快適性などの都会における「過密」がアダとなってしまったように感じています。今は、「新型コロナウイルス感染症」の終息と経済支援が最優先ですが、収まったその先に、首都圏等から能代山本のような自然豊かな地方への「ヒトの流れ」が出てきてくれることを期待しているところです。

今年の同窓会本部の「新年祝賀会」は49期と59期が当番幹事でにぎにぎしく開催され、49期の納谷学氏から木都のしろにふさわしい「秋田杉の可能性」というテーマで講演がありました。

また、去年は八峰町議会本会議、一昨年はA型インフルエンザのため、3年ぶりの出席となった「入会式」では、男子125名、女子102名の合計227名の皆様を同窓会にお迎えしました。

能代高校東京同窓会 組織図(2020/6/21現在)



数字は通算卒業期 ■ 網掛けはグループ・リーダー ※は兼任

注：2020/6/21 開催の幹事会にて承認

名誉顧問	26 八柳 昭義
顧問	25 畠 豊彦
顧問	39 菅原 涉
監査役	34 西川 廣正
監査役	44 庄内 俊憲

■他の各期幹事

【24期】山縣輝輔【26期】畠山信孝【29期】宮腰興紀【30期】熊谷幸夫【31期】馬場富男【32期】高谷誠【35期】干場革治【37期】若狭秀巳【38期】豊嶋誠【39期】大塚進、田村敏雄、諸沢隆一【45期】大塚雄蔵、真崎裕【46期】石井喬【47期】和平忠幸【49期】片谷浩之、田村盛仁【53期】吉田順【62期】大高忠勉【67期】小野立、滝田祐作

恩 師 に 聞 く

二度の赴任で見た生徒の熱意

秋林 孝克 先生

能代高校同窓生で、1975年(昭和50年)4月～1982年(昭和57年)3月および1996年(平成8年)4月～2002年(平成14年)3月に母校に在職なさった理科の秋林孝克先生にご寄稿いただきました。



●能代高校(樽子山校舎)受検の思い出

昭和32年3月、自家用車を持っている家庭はほとんどなく、道路は砂利道で能代バイパスなどももちろんない時代のこと。田舎の二ツ井町から都会の能代市へ車で受検に向かうが、東能代駅で乗り換えを忘れ、気が付いて五能線のホームへ駆けつけると車はすでに100メートルほど先を走っていた。他の交通手段はなく、一度は受検を諦めた。友人の一人は、ダメでもともと、走って行こうと提案。しかし、道路事情はまったく分からない。能代駅まで車が向かった線路上を走ることになり、ようやく試験の開始に間に合った。人生で忘れられない一コマ。自家用車やバスで受検会場まで送迎される今がうらやましい。

●最初の赴任、山岳部の活気

高埜の校舎が竣工した翌年に赴任した。進学校とあって、テストの成績にこだわる姿が強く感じられた。県内の進学校9校合同模試の成績如何で指導者も問われるように感じて、新米の私には気の休まることがなかったように思う。担当の化学の実験等でも、もっと考察の時間が欲しかった。

2年目に1学年の担任となったが、共通一次試験元年の学年で、その出題傾向がつかめず、生徒諸君と同じく不安であった。硬式野球部の高松君が同じ学年であった。2年生のときに彼の授業を担当したが、いつも窓の方を向いて着席し、顔だけ正面を向くので、どうしたのかと聞くと、今、牽制の練習中と堂々と言うあたり、只者ではないと感じた。おかげで、初めて甲子園に連れて行ってもらった。

クラブ活動ではYHC(ユースホステルクラブ)の顧問となり、簡易宿泊所等を利用して旅をするクラブだと思って楽しみにしていたが、数人のクラブ員が揃ってあいさつに来て、登山競技に出場したいというので驚いた。経験のない私には断らざるを得ない。しかし、簡単には引き下がらず、先生たちは他の進学校に負けるなと口癖のように言うが、進学校の中で登山部のないのは本校だけだという。ついに押し切られ、活動内容を変更し山岳部が誕生した。部員も顧問もゼロからの出発だ。白神岳をホームグラウンドに、年に1、2回は合宿をした。驚かされたのは、ザックの中に英数の教科書類を忘れない部員がいたことだ。数年後、部員にも活気がみなぎり、いよいよ全県優勝を狙えるところまで力を付けてきた。登山競技の順位は山頂など目的地への到着順だけで決めるのではない。当日の天気図を作成したり、地図を読む力やチームワーク、そして総合知識を問うペーパーテスト等が審査され順位が決まるのだ。

当時の部員はいろいろなところで活躍しているが、北大に進み同大の教官を経て、国立極地研究所教授となった藤田君などがいる。

●二度目の赴任と、ARDF 競技への挑戦

私の高校時代は職員室内で生徒を見かけることなどなかったが、なんと生徒の出入りが激しいことか。進路相談や質問で活気に満ちていたように思う。

山岳部の顧問はベテランの先生で、大勢の部員を抱え、常に優秀な成績を収めていたようだ。

私は無線部の顧問で、部室には素晴らしい無線機が整然と並んでいて驚いた。残念なことに部員は一人もいない。数年後、1年生の男女5人の入部があり、ようやく活動開始。部員はARDF(無線方向探索)競技に出場したいという。受信機を使い、無線の発信源を探索する競技だが、本校ではその活動の経験はなく、機材は市販もされていない。県内の先進校から機材を借用し、初めて大会に出場したが、見学に行ったようなものだった。2年目、ようやく練習にも身が入るようになり、昨年よりは好成績をと全県大会に臨んだが、驚くことに1位で帰ってきたのだ。この年と翌年の2回、出場した全国大会ではとても歯が立たなかった。しかし、その後活躍が目覚しく、今では国際大会でも優秀な成績を収めているようだ。

能高生だより

～新型コロナウイルス禍でも、しっかり目標を掲げる松陵健児のたくましさ～

【陸上部】 3年 福田 京太

大変光栄なことに僕は2020東京オリンピック聖火リレーの一般公募ランナーに選ばれ、能代の地を走ることになりました。僕は陸上競技部に所属していて、走るのはもちろん、スポーツが好きです。当然聖火リレーに興味を持っていました。選定基準に「日々の生活の中で、仲間と支え合い、諦めずにどんな困難にも立ち向かう人」という項目があり、心惹かれました。友達や仲間とともに勉強や部活動に励み、高みを目指す能高生の一員である僕にもその資格があるのではないかと思い応募したところ、なんと当選しました。

本来の走行日は6月10日でしたが、新型コロナウイルスの影響で延期となってしまいました。今回内定していた聖火ランナーは来年も優先的に走る権利があるそうなので、継続してチャンスをもたらえたことに、今もなお期待に胸をふくらませています。

僕は今受験生なので、来年走行する条件として「大学に受かる」ということを自分に課しました。だから、まずはしっかりと目の前の課題を一つ一つクリアして行って、春には合格し、来年は晴れて大学生としてこの能代を走ることができるよう努力します。また、その時には「至誠力行」の精神のもと、周りの人への感謝を忘れず、「松陵健児ここにあり」という姿を見せたいです。



【無線部】 3年 大塚 梨世

私は昨年10月に北海道千歳市で開催された全日本ARDF競技大会クラシック部門において優勝することができました。この大会は夏の各地方大会を勝ち進んだ上位3名による決戦大会です。当日は数日前から降り続いた雨によって地盤が悪く、走行中に何度も足を取られ、谷下に滑落しそうになるなど非常に過酷な条件下での競技となりました。このようなコンディションの悪さとコースの難しさの中で優勝でき、世界大会出場の切符に手が届くまでに進めたことは今でも信じられません。

上位大会となる世界大会はセルビアで予定されていましたが、新型コロナウイルスの影響で開催が難しいようです。県大会も軒並み中止となり、高校3年間の集大成になる大会に臨むことなく不完全燃焼のまま引退することになり残念でなりません。現在は2年生が主体となり活動しています。部員が互いに切磋琢磨しながら強豪能代高校の名を全国に轟かせることができるよう、さらに強い部を作って欲しいと考えています。

私は今、共通テスト初年度という受験システムの変更に加え、新型コロナウイルスの計り知れない影響で入試がどうなるのか不安な気持ちでいっぱいです。これは大会で、谷に滑落する不安や熊と遭遇する恐怖心に苛まれながら今まさに山に入らんとする心境に似ているかもしれません。全日本大会を制覇できたように、今自分にできることを頑張って受験を制覇したいと思います。



会報「松陵健児」第30号記念! 思い出の写真

能代高校東京同窓会の会報は1987年に第1号が発行されました。ほぼ年1回の発行で、今年第30号をお届けすることができました。題名は第19号から「松陵健児」に改め、現在に至っています。第1号からすべての会報が東京同窓会のホームページでご覧になれます。

ここでは第30号記念企画として、過去の総会・懇親会の思い出の写真を紹介します。2019年から取り組んできたデジタルアーカイブの成果も含まれています(アーカイブ事業の詳細については本誌p12をご参照ください)。

1978年の会場、茗溪会館の看板。当初の名称は「能代高校同窓会東京支部」。



1987年、ミニ能代若が登場。当時の宮腰洋逸・能代市長。



1990年、応援歌・校歌はスクラム組んで。左から3人目が小林肇・元会長。



1992年、バルセロナ・オリンピックで自転車競技で出場した49期鈴木裕美子さんの記念講演。左は太田勝治・元会長。



2005年、クイズ作家の29期大高幸夫さんによるクイズコーナーで盛り上がる。



2006年、懇親会に林家たい平師匠を招いてライブショー。軽妙なトークに続いて同タイトルの噺をモチーフにしたデビュー曲「芝浜」を熱唱。



2007年、懇親会で毎年披露された36期加藤和海さんの弾き語り。



2009年、特別企画「樽子山が生んだスーパーアーティスト」。43期五代儀彦秀さんの進行で、43期松尾一彦さん、44期宮城伸一郎さん、44期市川善光さんのトーク&ライブ。

令和元年度(2019年度)総会・懇親会の出席者(同年度会費納入者)

【23期】矢口裕(二中)【24期】山縣輝輔(二中)、今村宏司(一中)【27期】大村真陸郎(浜口)、檜森寛(鶴川)【29期】宮腰興紀(一中)、赤塚鉄男(東雲)【30期】熊谷幸夫(一中)【31期】馬場富男(二中、旧姓工藤)、高松和夫(金岡)【34期】西川廣正(東雲)【35期】金谷満郎(浅内)【37期】若狭秀巳(森岳)【38期】佐藤能雅(東雲)、菊地忠美(東雲)【39期】菅原渉(下岩川)、大塚進(二中)、諸沢隆一(一中)、田村敏雄(一中)、住吉修平(一中)、山本達行(二ツ井[能代より参加])【40期】小林哲(東能代)【41期】小河範也(二中)、田中亨(響)、金子裕二(浜口)【42期】工藤長彦(琴丘)【43期】菊池忠夫(藤里)、高橋敦子(東能代、旧姓渡辺)、須藤正喜(八森)【44期】庄内俊憲(八森)、森岡雅信(二中)【45期】袴田邦夫(二中)、三浦洋(森岳)、真崎裕(二中)、河田昌俊(一中)、能上慎也(一中)、山谷めぐみ(二ツ井)、高松武史(金岡)、大塚雄蔵(二中[神戸より参加])【46期】吉田真由美(一中、旧姓工藤)、大山望(二中)、平川浩*(二中)、平川尚(一中)【47期】野村一哉(二中)、越中谷真喜(一中)、腰山達哉(八森)【48期】藤田幹也(二中)、大黒規正(森岳)、佐藤美香子(二ツ井、旧姓中田)、野村松信(檜山[秋田より参加])、小林金雄(東能代[秋田より参加])【49期】近藤敏仁(下岩川)、片谷浩之(二中)、今野泰則(一中)、大塚聡子(一中、旧姓佐藤)【50期】石井鉄美(一中)、大塚大(一中)、佐藤孝也(一中)、堀内学*(二中)、山田浩充(二中[能代より参加])【51期】袴田亘(二中)、池内史彦(山本)、安田勉*(八郎潟)、河田康史(檜山)、村田祐子*(二中、旧姓山内)、平塚征悦(東雲)、平塚佐智子(東能代、旧姓浅野)、三浦基英(金岡[三種町より参加])【53期】梶原禎子(八竜)、吉田順(一中)【54期】遠藤いぶき(東能代、旧姓畠山)【55期】淡路和子(一中)、浅野敦志(東能代)【56期】高橋善宏*(山本)、伊藤孝義(一中[能代より参加])【62期】大高忠勉(峰浜)【66期】高橋弘志(二ツ井)【67期】滝田祐作(一中)、小野立(一中[能代より参加])【68期】幸坂智子(能代南)【77期】山崎愛実(東雲)【87期】佐藤友希子*(二中)【88期】佐藤美那子*(二中)

●同窓生出席者数 76名 ●東京同窓会以外の同窓生 7名 ●同窓生家族・友人 6名 ●*印は初参加者 7名
●出身中学校名は卒業当時の校名

令和元年度(2019年度)総会 欠席しますと回答いただいた方と会費納入の方

【24期】豊田誠#【25期】畠豊彦、栗原俊一#、工藤尊久#、町田次男#【26期】板倉富彌#、伊藤倫子#、佐々木高博#、畠山信孝#【27期】斎藤秀夫#、栗原優子#、石嶋喜直#、山田邦夫#【28期】須田正巳#、穴山勝良#【29期】蓼沼正紀、鈴木元紀、塚本祝永#、宮腰瑞夫、石川正順、大越善蔵#、嶋田雄右#【30期】宮腰七郎、渡邊傑#【31期】熊谷博雄#、佐藤昭夫、小田幸雄#、長岡満夫、岸部武彦#、大倉報三【32期】森田弘、笠原強、高谷誠#、田中正敏#、杉江昭宏#【33期】金田英成#、堀内忠人#、清水靖子#【34期】畠山昇#、斎藤彰悟#、長岡忠光#【35期】金子永喜#、恩田恒美、横田真理子#、干場革治#【36期】深井学#、細田静夫、桜庭均#【37期】小野津世子#、加賀咲男#、袴田大蔵#、今野廣隆#、山田達則#、小杉山久晴【38期】畑沢鉄三、赤塚剛#、戸松伸一#、成田正廣#、荒川久敏#、福田満男#、大塚健三、佐藤春香#、佐藤則男#、松谷康雄#、市川正敏#、能登洋一#、金谷昇#【39期】下坂節男、直嶋博明#、持田訓#、金谷もと#、土田一夫【40期】智田農#、敦賀照光、小松文明#、増田春樹#、熊澤朝子#、三浦和信【41期】成田忠幸#【42期】佐藤行信#【43期】五代儀彦秀#、幸坂和彦#、福岡武#、石塚信一#【44期】宇野雅子#、佐藤伸、佐藤穰#、渡辺隆幸#、武石栄伸、三国昇一#、長尾順子【45期】加藤成、原田康男、榊原正彦#、小杉山乙矢#、鎌田泰宏、井上清起#、平野信任、港基樹#、工藤輝巳【46期】斎藤靖雄#、佐藤康准#、秋林泰樹#、清水文彦#、鷺谷太郎#【47期】佐野輝彦、山田肇【48期】北林蒔子#、小嶋覚#、淡路正則#、澤口学#、野島美季子【49期】西村裕之#【51期】鶴谷則子#、工藤治【53期】堀内博司#、櫻田亨#、若林康人、石田千洋【54期】加藤正樹、佐藤周之#、今佐都美、佐藤篤規#、三浦佳奈子【55期】伊藤広一#、嶋田久美子、大山頭#【59期】畠山真吾#、日吉由紀子【60期】安井正彦【66期】畠山幸#、清水洋志、安井士郎#【68期】大塚さと子【84期】加藤匡

●#印は会費納入の方 ●年会費世帯制の適用者2組は2名の名前を掲載しました。

※このページは敬称を略しました。★今年度も会費納入にご協力をお願いいたします。

令和初の総会・懇親会のご報告

2019年、令和最初の東京同窓会・総会が10月5日(土)12時20分より、アルカディア市ヶ谷にて開催されました。東京同窓会会員の他、昨年4月に本校の校長として赴任なさった山田浩充先生(第50期)、元校長であり能代高校同窓会副会長の山本達行さん(第39期)など、来賓の方々を迎えました。総会の司会は幹事長補佐の野村一哉さん(第47期)、議長は諸沢隆一さん(第39期)が担当。総会に続く講演会は、有限会社サンクラ代表で三種町観光協会副会長でもある三浦基英さん(第51期)を講師に迎えました。懇親会は高橋弘志さん(第66期)と幸坂智子さん(第68期)の司会で進行し、盛会のうちに終了。また、元能代高校同窓会副会長の柴田郁さん、恩師の藤田昭夫先生、小西和子先生からちよだいしたお葉書の写しを会場に掲示させていただきました。

講演会「DMO あきた白神ツーリズム ふるさとは何を指すのか」

講師：三浦基英さん(第51期)



●吹奏楽の活動で得た観光への視点

私は山本中学校ができたときの最初の入学生です。2年上に高松直志先輩がいて、野球部のエース・ピッチャーとして活躍されていました。高松先輩が能代高校の2年生のときに甲子園に出場。私も野球少年だったので、甲子園に行きたいと思い、能代高校の吹奏楽部に入りました!(場内笑)そして、なんと4ヵ月で甲子園出場が実現してし

まいました。

大学進学と就職で東京に25年おりましたが、家業を承継するべく秋田に戻ったのが平成18年(2006年)4月。山本町が三種町になった月です。能代山本地区観光連盟という、1市3町が連携している連盟にも参加するようになり、初めて三種町以外のエリアの情報にもダイレクトに触れるようになりました。

2015年、高校の吹奏楽部の先輩から声をかけていただいて、能代超新星ポップスオーケストラ(バンドマスター:44期加賀谷優さん)に参加しました。能代はもちろん、八峰町や秋田市、いろいろなところへ演奏しに行きます。地域のイベントに参加するという経験を得て、これが私の観光の視点に非常にうまくマッチしました。

それとは別に、能代高校メモリアル吹奏楽団(団長:49期中村浩三さん)にも参加しました。OB・OGに現役高校生も少し混じって、年に一度コンサートを開きます。大先輩から現役生まで一緒に音楽を演奏する。これは私にとってありがたい経験で、こうした音楽の活動を通して、観光をどう見るかということも考えています。

●観光における成功とは?

観光における成功って何でしょうね。人がいっ



スクリーンに投影された関連写真を見ながら講演を聞きます。

赤坂スペイン料理と手作り生ハムの店 CERVECERIA GRANVIA

〒107-0052
東京都港区赤坂6-4-15
シティマンション赤坂101
Tel/Fax 03-6277-8621
mail kaneko@granvia.jp



秋田(田沢湖)生ハム工場 グランビア生ハム工房
〒014-1201
秋田県仙北市田沢湖生保内字下高野71-149
Tel/Fax 0187-42-8356

会 員 だ よ り

コロナとともに

第39期 諸沢 隆一

生まれた所は空気が色が違います。土地の匂も格別です。父や母の記憶も濃やかに漂っています。(夏目漱石「こころ」より)

そのふるさとが今、クルナと言っています。ふるすとは私たちが待っていてくれたのに……。そうさせたのが、すべて諸悪の根源である新型コロナウイルスの所為です。

そのふるさとへの想いがいっぱいつまっている能代高校東京同窓会。一昨年は、私と同期の(株)小森コーポレーション社長の持田訓さんに講演をしていただきました。会社は印刷機械の開発、製造販売をされております。興味深かったのが国内で唯一の紙幣印刷機メーカーであり、国内のみならず海外でのシェアも広げているというお話でした。その日、語り合いは当然盛り上がり、三次会まで行ってしまいました。

そして昨年9月15日に能代において、能代第一中学校19期生の古希を祝う同期会が実施されました。ちょうど前日には「おなごりフェスティバル」も開催され、80名の学友が参加されました。もちろん、宴が大いに盛り上がったのは言うまでもありません。

さらに、能代高校東京同窓会は能代山本出身の方や会員のご家族・友人等なら誰でも参加できるようになっていますが、昨年は能代北高校出身の



2019年の懇親会より、能代北高校卒業生のみなさんを囲んで。

5名の方々が参加してくださり、大変喜ばしいことでした。

このようにイベントにおいても、社会経済においても、いかに人を集めるかを考え行動してきたのが、コロナ禍はいかに人と人を引き離すかという行動を求めてきます。真逆です。人類が初めて経験しているこの危機において、国はもちろんのこと、規則を守る、賢い日本国民が行動パターンを変え、コロナと共存していく社会を目指していくということか。いずれにしても、コロナの終息を願い、安心してまた皆様とお会いできる日を楽しみにしております。



懇親会の初参加者紹介の場面。山田校長先生にも東京同窓会の総会に初めて参加した同窓生として自己紹介していただきました。

僕らの時代

第51期 安田 勉

時の流れは早いもので、つい最近WEBで能代工業高校と能代西高校(旧:能代農業高校)が統合され、新しく能代科学技術高校が誕生すること



第51期生の再会。右が安田勉さん。

を知った。能代工業高校とえば、バスケットボール部で獲得した全国タイトルは全国高校最多の計58回、その内訳はインターハイ6連覇を含む22回、国体16回、ウインターカップ20回である。そして、数年前には能代北高校と能代商業高校の合併で能代松陽高校へ。少子化の波は地方都市から急加速しており、私自身たいへん寂しい思いをしている。

毎年、事務局より会報誌「松陵健児」を頂き拝見していたが、一步踏み出すことができなく欠席連絡。けれども、今回(2019年)は事務局の同期・袴田君から「基(もと)が講演をするよ」という話を聞き、初めて参加した。高校の同級生が能代山本1市3町連携による地域DMO「一般社団法人 あきた白神ツーリズム」を設立し、少子高齢化を見据えたふるさとの取り組みや課題に、理事として活躍していることを頼もしく思える。

今思えば、高校時代は、入学してすぐ硬式野球部の甲子園出場や伝統の体操部の活躍、軟式野球部の全国制覇等、学業と部活動の文武両道を目標に切磋琢磨していた。人生という長いマラソンの中で、高校時代は100メートル・ダッシュを何本もしていたような気がする。それだけ3年間というものが濃密であった。そして、能代高校東京同窓会に参加して、諸先輩方とは年齢さえ違えど当時の思い出を語り合い、同級生との語らひは三次会まで続き、心の奥底にある母校と郷里の思いを再確認させられた。

最後に、長年能代高校東京同窓会の運営等にご尽力されてこられた事務局の皆様には心から感謝いたします。また、新型コロナウイルスにより罹患された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。



第51期生の乾杯。



アトラクションは松陵クワイヤ(東京同窓会有志)によるゴスペル歌唱で、「秋田音頭」は初披露の歌詞を含めたフルバージョンで歌いました。



大高忠勉さん(第62期)が応援団長役としてエールを送り、応援歌「日本海」と校歌を斉唱。



2010年、千葉国体に出場した軟式野球部の応援を機に製作した横断幕。以降の総会会場にも毎回掲示しています。

湯島で同窓生に会える店



あぐ・季節料理
上野 きくち

通算43期(新制25期) **菊池 忠夫** 白神山地(藤里町)出身



千代田線湯島駅6番出口
徒歩1分
(大手町から北千住へ向かって最後方出口)
東京都台東区上野1-12-2
電田ビル 1F ☎110-0005

ご予約をおすすめします

03-3839-3382

続・アーカイブ事業への 取り組み状況

第45期 袴田 邦夫

昨年の会報(p15)で過去の総会スナップ写真を中心とした資料のデジタル・アーカイブ化作業に着手したことを報告しましたが、その続報です。

①アーカイブデータ規模

- *ネガフィルム：41本、約1,050コマをJPEG化
 - *プリント写真：約2,000枚、単独JPEG化及びアルバム台紙ごとにJPEG/PDF化
 - *カセットテープ：5本、約4時間半をWAVE化
 - *その他文書等：約300枚の関係資料をPDF化中
- これらは、Googleドライブに保存中(約6GB)であるとともに、昨年の総会で一部写真を投影発表しその内容の一端を披露しました。

②アーカイブデータに見る東京同窓会の歴史

最も古い資料(写真)は1978年、茗溪会館で開催された「東京支部総会」のスナップです。当時は、旧制第1期の大先輩でもまだ60歳代で



1978年、東京支部総会のスナップから。

す。当日の参加者名簿は残念ながら見つかっておりませんが、会報第1号(1987年発行)のp16「能代高校東京同窓会の歩み」に、案内状発送数400、参加者78名との記述があります。以後2000年前後までの写真を眺めると、オリンピック選手・国会議員の参加、ビンゴ大会の盛況等、会報と見比べてみると当時の様子が更に伝わってくる気がします。

③今後の対応

現在は、単なるデジタルデータの羅列に過ぎませんが、過去の会報記事や参加者データとのリンク等、データ間の関連付けによる更なる有用化を旨に、ホームページあるいはその他での公開を目指したいと思っています。



2019年の懇親会の締めとして、片谷浩之さん(第49期)の発声で万歳三唱。

東京探訪の会へようこそ!

第46期 吉田 真由美

「故郷を離れ長年慣れ親しんできた東京にも知らない面がたくさんあります。日常あまり触れることのない東京と一緒に訪ねて、再発見してみませんか」という呼びかけで始まった東京探訪の会。記念すべき第1回は2007年6月16日皇居東御苑でした。当時の東京同窓会幹事長39期菅原涉さんからの、趣味の同好会を作って同窓生同士の親睦を深めよう!という提案に応えたのがきっかけです。

ほぼ年2回のペースで探訪し、2019年11月23日に第22回を開催しました。10年以上にわ

世界初

ダイレクト・インジェクション型
ガスハイブリッドロケットの
打ち上げを成功




約28万回ダウンロード
アプリランキング2位!

ハナノナ

花の種類を自動分類するアプリ
「ハナノナ」をAIで機能強化



WEBでCHECK!

Tel.047-478-0222(入試広報課)

〒275-0016千葉県習志野市津田沼2-17-1

たり続けてこられたのは、何より私自身この探訪を毎回楽しみにしていること、また、参加者が次々に案内人を引き受けて企画してくれたこと、そして、いつも楽しみにしていると声をかけてくれ、ときには家族と、また遠方からも参加して下さる皆さんのおかげです。お天気やメンバーによってはコースの変更や省略もありの、ゆるーい散策なものよかったです。

建設中のスカイツリーや、建て替え前の歌舞伎座をバックに記念写真を撮ったり、旧・国立競技場正面の東京オリンピック優勝銘盤で大先輩の小野喬さんの名前を見つけたのも、今となっては得がたい思い出です。

さて、第22回の探訪は「小石川後樂園と印刷博物館」。当日は残念ながら雨模様でしたが、31期から51期まで10名が参加しました。水戸徳川家ゆかりの小石川後樂園は紅葉には少し早かったものの、木々が池に映えて美しく、隣のビルが視界に入らなければ都心にいるのを忘れそうな空間でした。

続いて凸版印刷の印刷博物館へ。同社に縁のある50期佐藤孝也さんのご厚意で入場券を提供していただき、古今東西の珍しい資料や美しい印刷物を見学しました。予定の時間内ではとても見きれないほどでした。

これまで22回探訪してきましたが、まだまだ知らない東京がたくさんあります。これからも同窓生の皆さんと、ゆるーく楽しく探訪が続けられればと願っています。ご参加をお待ちしています。



小石川後樂園で記念撮影。

東京同窓会の同好会

東京同窓会には、同窓生の親睦のために以下の同好会があります。これらの会に連絡を取りたい人、新たな同好会の提案や希望がある人はご連絡ください。

事務局メールアドレス：NoshiroHTR@gmail.com

◇能高五日会

活動内容：2006年1月5日に設立した同窓生の青年部で、若手同窓生(第45期より下)の親睦と交流を目的にした懇親会。次回の開催はメール、フェイスブック、LINEでお知らせします。

代表者：清水洋志(第66期)

◇樽子山会

活動内容：樽子山を卒業した世代が各期を越えて参集し懇談します。元気な70歳代の楽しい寄集まり会にしたいと思います。会報や東京同窓会ブログに過去の開催レポートを掲載しています。

代表者：熊谷幸夫(第30期)

◇能球会

活動内容：年2～3回、東京近郊のコースでゴルフを楽しみます。次回は今年10月13日に大多喜城ゴルフ倶楽部を予定。希望の方はお問い合わせください。フェイスブックのグループもあります。

代表者：石井鉄美(第50期)

◇能高釣クラブ

活動内容：自然を満喫しながら溪流釣を楽しみ、昼はバーベキュー、夕方は温泉で疲れを癒します。

代表者：小河範也(第41期)

◇東京探訪の会

活動内容：年2回(予定)、日常あまり触れることのない「東京」を訪ね、約2時間のコースを散策します。東京同窓会ブログに報告を掲載。次回の開催はメールでお知らせします。

代表者：吉田真由美(第46期)

◇能高バスケの会

活動内容：能代カップやウインターカップ、Bリーグ観戦、本校バスケットボール部やOB会との交流などによる情報交換をしています。東京同窓会ホームページに報告を掲載。今年1月最終週に能代で開催されたバスケット部OB会に参加しました。

代表者：片谷浩之(第49期)

令和2年度(2020年度)収支決算報告書(2019年8月1日~2020年7月31日)

収入の部			支出の部		
項目	予算	決算	項目	予算	決算
総会収入	788,000	564,000	総会費	1,103,600	781,806
会費収入	420,000	328,000	組織拡張費	20,100	0
雑収入	57,150	75,009	一般管理費	141,450	90,346
当期収入合計	1,265,150	967,009	当期支出合計	1,265,150	872,152
			当期収支	0	94,857
			前年度繰越金	1,144,164	1,144,164
			翌年度繰越金	1,144,164	1,239,021

■同年度の収入には、同窓会助成金および次の5名の同窓生からの寄付金が含まれています。ありがとうございました。
 【23期】矢口裕 【24期】山縣輝輔 【43期】菊池忠夫 【45期】加藤成、三浦洋
 ★会報には簡易版を掲載しています。同封の資料、東京同窓会ホームページでは詳細をご覧ください。

【会費納入のお願い】

◎会員の皆様から納めていただいている年会費は主に会報の発行と、幹事会や総会開催にかかる費用に充当されています。今後とも納入にご協力をお願いいたします。

●会費[2,000円]納入方法

①郵便振替払込(会報に同封した赤色の用紙を利用：同窓会が手数料を負担)

- ・日本郵便のATMを利用(手数料152円)
- ・日本郵便の窓口を利用(手数料203円)

②ゆうちょ銀行の《ゆうちょダイレクト》をご利用の方

インターネット経由で送金していただくと手数料は月5回まで無料です。振替払込の手数料分が同窓会の経費削減につながりますので、ご協力をお願いいたします。

なお、送金・振込時には名前の前に卒業期(通算)の数字を添えていただくと助かります。(例：45ミウラヒロシ)

③年会費振込先

(ア)郵便振替払込

口座番号 00150-7-27459

加入者名 能代高校東京同窓会

(イ)ゆうちょ銀行

〇一八(ゼロイチハチ)支店

口座番号 普通預金 5914261

加入者名義 能代高校東京同窓会

【会報はホームページでも公開中】

■東京同窓会の会報は第1号からすべてホームページにて、PDFで公開しています。お手もとにない号は、トップページから「会報」の項を選んでご覧ください。まだ会報をご覧になったことがないお知り合いの同窓生にもお勧めいただければ幸いです。第15号以前は誌面からのPDF化のため少し読みにくくなっていますが、何卒ご了承ください。

<http://shoryokenji.web.fc2.com>



【メールアドレスとQRコード】

■東京同窓会事務局の専用メールアドレスが新しくなりました(東京同窓会ホームページからもリンクしています)。

NoshiroHTR@gmail.com

スマートフォン等をお使いの際はこちらのQRコードをご利用ください。



松陵健児

能代高校東京同窓会 会報 第30号

発行日 2020年9月1日

発行 能代高校東京同窓会

発行責任者 三浦洋

編集 会報誌グループ

印刷 株式会社 毎栄

■能代高校東京同窓会事務局

〒270-2212

千葉県松戸市五香南 1-16-11 三浦洋方

E-mail: NoshiroHTR@gmail.com

Website: <http://shoryokenji.web.fc2.com>

■年会費振込先

●郵便払込口座番号 00150-7-27459

加入者名 能代高校東京同窓会

●ゆうちょ銀行 〇一八(ゼロイチハチ)支店

普通預金 5914261

名義 能代高校東京同窓会